

知的障害特別支援学校高等部におけるライフキャリアに関する教育実践 —保護者ニーズから汲み取る子ども理解の有用性—

**キーワード：移行支援計画、保護者ニーズ、ライフキャリア、キャリア教育
子ども理解、知的障害特別支援学校高等部**

教育実践研究の目的

知的障害特別支援学校高等部におけるライフキャリアに関する教育実践として移行支援計画に位置づくライフキャリアの概念を取り入れたキャリア教育の指導・支援の充実をめざし、保護者ニーズに着目した移行期における教育支援を検討・考察することを目的とした。

また、本教育実践研究の枠組みとして図1に示した。

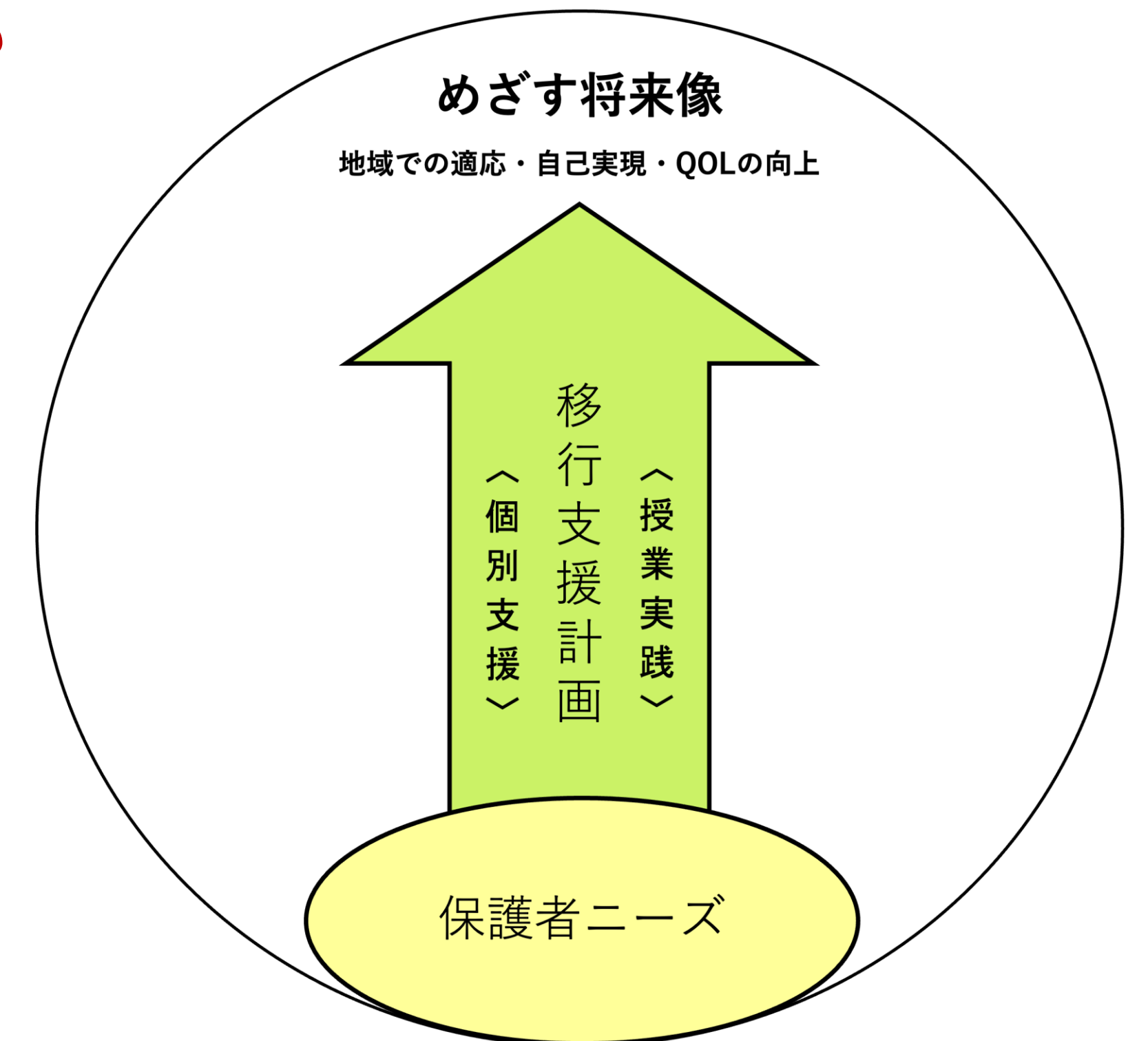
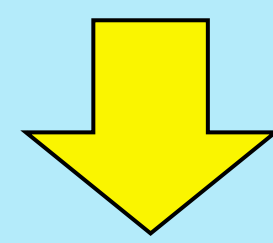


図1 教育実践研究の枠組み図

移行支援に基づく授業実践

令和3年度卒業の高等部3年生に対する子どもの「めざす将来像」を移行支援計画に位置付けたキャリア教育としての授業実践を評価することを目的とする。



移行支援計画については、従来の労働としての移行支援計画とは異なり、保護者ニーズに着目し子どもが「めざす将来像」や高等部卒業後の地域での適応や自己実現、QOLの向上を目標とする移行モデルに基づく**ライフキャリアの概念を取り入れた移行支援計画 (図2)**を立案した。これからの子どもの長い人生を見通していくなかで重要となる支援者である保護者のニーズを汲み取り、ライフキャリアの視点に基づく自分らしい生き方の目標や計画のツールとして移行支援計画を検討し、大きく4つの構成要素を踏まえて作成した。

作成日:令和 年 月 日 移行支援計画

名前	性別	生年月日
ライフキャリアビジョン (地域での適応・自己実現・QOLの向上)		
保護者ニーズ		
健康状態		
心身機能・身体構造	活動	参加
環境因子		個人因子

A特別支援学校

作成日:令和 年 月 日 移行支援計画

教育実践 (集団指導)	内容	達成状況
教育実践 (個別指導)	内容	達成状況

A特別支援学校

図2 移行モデルに基づくライフキャリアの概念を取り入れた移行支援計画 (様式)

考察

①移行支援計画に基づく授業実践

移行支援計画に基づく授業実践から**自分の将来について学ぶこと**の重要性を改めて考えることができた。そして、高等部卒業段階の子どもとその保護者のこれからの長い人生を見通し保護者ともに教員は**社会へとつながる重要なキーパーソン**として、教育実践から子ども理解の深層に迫りながら、保護者ニーズを汲み取り「めざす将来像」に向けた移行支援計画に基づく授業実践の必要性が考えられた。

②保護者からみる子どもの「めざす将来像」の変容

移行期における段階的なストーリー・ラインに示されている保護者からみた子どもの「めざす将来像」の結果は、表2のように移行期における子どものライフキャリアの変容があると解釈された (一部対象者抜粋)。

結果

【移行支援に位置づく授業実践の評価】

対象者である保護者から移行支援計画に基づく教育実践について、その授業実践前、授業実践後、卒業4カ月後に行った計3回の質問紙調査より得られたデータにSCATによる質的分析を行った結果、表1のストーリー・ラインが抽出された (一部対象者抜粋)。

表1 保護者からみた子どもの姿の変化 (移行期における段階的なストーリー・ライン)

	授業実践前	授業実践後	卒業4ヶ月後
1	私は、子の卒業を控え、子が〈自分が自分らしく社会に適応する方法〉を身につけ、〈子がめざす将来像の表現〉をめざしていると思っていた。しかし、〈子の自己理解と社会適応の困難さ〉を感じ、〈心身が充実して生活を望む親の思い〉がある一方、〈子の自己実現が親の意向となっている思い〉があった。	私は、子が〈年相応の自我の芽生え〉と共に〈社会生活を肯定的に思考する〉ことから〈自立して主体的に余暇活動する姿〉を表し、〈福祉サービスを活用しての社会との接点〉があると思っていた。それは、〈学校への謝意を示す親の思い〉から、親として子が〈自己選択や自己決定の機会を促す〉ようにしていたからであった。しかし現実には、子は〈社会に出る認識の曖昧さ〉があるものの〈迫っている子の新たな状況変化〉にあり、私は〈学校から社会への気がかり〉を感じていた。	私は、子の卒業後、〈自己選択ではない家族意向の生活環境〉から〈支援を受けながら子が生活する未来〉へと変容する中で、〈自立し幸福に生きていく親の願望〉や〈快適な暮らしを追求する思い〉という思いがあった。子は、〈社会適応しようとする恒常的に尽力する姿〉を見せ、〈環境変化への対応や地域での適応の拡がり〉を表現していた。それは、〈余暇活動を発見する重要性〉や〈在学時における体験的な活動の有用性〉を認識することで、私が〈自己の学習成果を活用して自立への促し〉をしていたからであった。

注) ストーリー・ラインには、保護者からみた子どもの「めざす将来像」が示されている部分に、下線を配置した。

表2 移行期における子どものライフキャリアの変容

1	保護者は、移行支援前には、子が自分らしく社会に適応する方法を身につけ、自己実現していく姿を思い描いていた。授業後はより具体的に、自分で思考したり余暇活動に取り組んだりする姿を思い浮かべ、社会資源の支援を受けながら社会で生きていく子をイメージしていた。卒業後、実際には、社会適応しようとして、拡がりをもって社会で適応している子どもの姿があった。
---	---

課題と展望

課題として、卒業後の追指導時における移行支援計画の把握の分析や計画の修正などが十分に検討できていない部分が挙げられる。最後に、本教育実践研究の重要性として、組織的かつ協働的な働きかけを同僚や後進育成として共有、継承することについて、在校時からの特別支援学校のライフキャリアの概念を取り入れたキャリア教育のあり方をどう推進していけるかなど、教育実践を通して自己を省察し、教職キャリアにおける職能成長としての教育課題の解決に向けて、自己に期待していきたい。